

令和3年9月 定例教育委員会々議録

1 日 時 令和3年9月28日(火) 午後1時30分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室301

3 出席委員の氏名

教 育 長	山 田 公 一	教育長職務代理者	中 野 信 男
委 員	秦 久美子	委 員	斎 藤 純 郎
委 員	小 林 恵 子	委 員	上 田 佳 澄

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長	太 田 和 行	主 幹	鈴 木 華 奈 子
学 校 教 育 課 長	岡 部 清 美	子 育 て 支 援 課 長	白 井 健 次
社 会 教 育 課 長	石 田 進 一	主 任 指 導 主 事	小 池 純 一

5 本委員会書記

学校教育課 向 井 康 弘 他 2 名

6 傍聴人

1 人

7 会議に付議した事件

会議録の承認

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第 8 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第 7 号 新規共催・後援申請について

その他

- (1) 令和3年第3回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）
 - 1) 一般質問の概要について
 - 2) 令和3年度燕市一般会計補正予算（第8号）
 - 3) その他
- (2) 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

8 閉 会

会議録

別紙のとおり

1 開 会 宣 言 午後1時30分～

2 会議録の承認

全員異議なく、令和3年8月定例教育委員会々議録は承認された。

3 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定

〈各課長が報告〉

○委員（斎藤 純郎）

「県立燕中等教育学校視察研修」について、視察研修の目的を教えてください。

○主任指導主事（小池 純一）

小学校教員にとっては、市内及び近隣市町村立学校から進学した生徒の学校生活を視察し、自校の進路指導や学習指導に活かすことを目的としている。

中学校教員にとっては、中高一貫教育における学校生活や学習への取り組みや授業の様子を自校の学習指導に活かすことを目的としている。

○委員（斎藤 純郎）

市内小中学校と燕中等教育学校でお互いに学びあいながら切磋琢磨していただきたい。新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いたら、燕中等教育学校を含め、高等学校等への視察を企画していただきたい。

○委員（小林 恵子）

10月に分水高校研修視察があり、そこで市内の高等学校の様子を見ることができるとは、市内小中学校の様子を見る機会を作っていただきたい。例えば、公開授業を見に行くことはできるのか。

○主幹（鈴木 華奈子）

小中学校についても学校の了承が得られれば可能である。

○教育次長（太田 和行）

例年、教育委員で施設の視察を数回行っている。その視察先の中に小中学校を入れたいと思う。今年度の視察についてはこれから計画する。

○教育長（山田 公一）

例年、小中学校や改修した施設の視察を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が難しい状況が続いていた。最近は感染状況が落ち着いているため、視察を企画させていただく。

（2）教育長報告

〈山田教育長が以下のとおり報告〉

1 はじめに

- 北海道、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県、沖縄県に出されていた緊急事態宣言は、9月30日まで延長された。
また、宮城県、福島県、石川県、岡山県、香川県、熊本県、宮崎県、鹿児島県には9月30日まで、まん延防止等重点措置が発令された。（宮城県、岡山県は緊急事態宣言からの移行。富山県、山梨県、愛媛県、高知県、佐賀県、長崎県に出されていたまん延防止等重点措置は、9月12日をもって終了）全国的に感染者が減少している状況もあり、政府は緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置を9月30日をもって全面的に解除する方向で進めている。
- 県内でも新型コロナウイルス感染者が急増し、県は、8月30日（月）付けで新潟県内全域に特別警報を発令し、9月3日（金）から16日（木）までの間、県内全域の飲食店に時短営業を求めるとともに、県立学校の部活動休止、県立施設の原則休館の措置を実施し、県内市町村にも同様の対応を要請した。
- 燕市も県からの要請を受け、9月3日（金）から16日（木）までの間、市内中学校の部活動を休止するとともに、市の公共施設を原則として臨時休館することとした。
- 県内の感染状況が減少傾向に転じ、県は当初の予定どおり9月16日をもって特別警報を解除したことから、燕市も部活動の休止、公共施設の原則休館の措置について9月16日をもって終了することとした。
- 特別警報発令期間中における児童生徒や市民の皆様のご協力に、感謝申し上げます。

2 令和3年第3回燕市議会定例会（9月議会）の報告

【議案について】

- 教育委員会に係る議案は、次の3件であった。
 - ① 令和2年度燕市一般会計決算の認定について
 - ② 燕市吉田トレーニングセンター条例の一部改正について

③ 令和3年度燕市一般会計補正予算（第7号）

②については、9月13日（月）開催の総務文教常任委員会で、賛成少数で否決されたが、議会最終日の9月24日（金）に議員（総務文教常任委員）から議案の修正動議が出され、まず修正案について可決され、修正部分を除く市提案の原案についてもその後可決された。

①及び③については、議会最終日にそれぞれ原案どおり認定、可決された。

【一般質問】

- 教育委員会に対する主な一般質問は、次のとおり。
 - ・水道の塔の今後について
 - ・地域学校協働活動とコミュニティ・スクールについて
 - ・児童施設のインクルーシブデザイン等について
 - ・読解力向上の取り組みについて
 - ・第2次燕市子ども読書活動推進計画の進捗状況等について
 - ・つばめ子育て応援カード事業について
 - ・スケートボード練習場の整備について
 - ・保育施設や小中学校の給食の無償化について
 - ・オリンピック・パラリンピックが児童生徒にもたらしたものについて
 - ・登録有形文化財等の活用について
 - ・「部活動指導員制度」及び「つばくろいきいきスポーツクラブ」について

【議員協議会】

- 議員協議会において協議した案件は、次のとおり。
 - ・燕市全天候型子ども遊戯施設整備基本構想（案）について
 - ・燕市スポーツ推進計画の1年延長について

3 9月の行事から

(1) 燕市英語スピーチコンテスト表彰式（9月24日（金））

- 令和3年度の燕市英語スピーチコンテストについては、8月28日（土）に燕市文化会館大ホールで開催し、その表彰式を9月24日に燕市役所つばめホールで開催した。
- 通常であれば、スピーチコンテストの当日に表彰式を行っていたが、このたびは新型コロナウイルス感染症対策から、入場者を最小限にするとともに、コンテスト当日の審査は行わず、スピーチの模様を収録し、後日、審査員からその録画を見て審査をしていただくこととさせていただいた。
- その審査の結果を受け、9月24日に表彰式を実施したもの。
- 表彰式では、最優秀賞1名、優秀賞7名、努力賞3名にそれぞれ表彰状をお渡した。最優秀賞については、吉田中学校の長谷川心暖さんが受賞した。

- 例年とは異なる環境の中で、素晴らしい発表をしてくれた 11 名のコンテスト参加者の皆さんに、改めて心から敬意を表したい。

4 結びに

- 県内全域に出されていた特別警報は、9月16日（木）をもって解除されたが、今後の新型コロナウイルスの感染状況については、引き続き注視していく必要がある。

園や学校をはじめ、教育委員会が所管する施設においては、感染症予防対策をしっかり行うよう、改めて指示を出したところである。

(3) 寄附報告

5 件の寄附について

〈No. 1 について石田社会教育課長が説明〉

〈No. 2 について白井子育て支援課長が説明〉

〈No. 3、4、5 について岡部学校教育課長が説明〉

4 専決処分の報告について

報告第 8 号 共催・後援の教育長専決報告について

4 件の共催・後援申請について

〈No. 1 について石田社会教育課長が説明〉

〈No. 2 について岡部学校教育課長が説明〉

〈No. 3 について石田社会教育課長が説明〉

〈No. 4 について岡部学校教育課長が説明〉

5 件の共催・後援申請の中止・変更について

〈No. 1 について岡部学校教育課長が説明〉

〈No. 2 について石田社会教育課長が説明〉

〈No. 3 について岡部学校教育課長が説明〉

〈No. 4、5 について石田社会教育課長が説明〉

5 協議題

協議第 7 号 新規共催・後援申請について

1 件の後援申請について

〈No. 1 について石田社会教育課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく No. 1 は承認された。

6 その他

(1) 令和3年第3回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

1) 一般質問の概要について

〈太田教育次長が説明〉

2) 令和3年度燕市一般会計補正予算（第8号）について

〈白井子育て支援課長が説明〉

3) その他

○社会教育課長（石田 進一）

燕市吉田トレーニングセンター条例の一部改正について、9月議会に改正案を上程した。内容は料金表の改正で、議案の審査を総務文教常任委員会で行っていただいたが、そこで委員より「高校生から大人と同じ料金をいただくのはいかがなものか。」といった意見や「中学生がトレーニングルームを利用できないのはいかがなものか。保護者同伴なら可とするなど、柔軟な対応が必要ではないか。」といった意見をいただいた。結果として、賛成少数で改正案は否決された。

議会最終日に議員から、料金について、ニーズに合った柔軟な対応を採るべきであるという趣旨の修正動議が提出された。その後採決が行われ、まず修正案について可決され、修正部分を除く市提案の原案についても可決された。

今後は修正動議を踏まえて、再度検討を行う。

(2) 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

〈小池主任指導主事が説明〉

○委員（斎藤 純郎）

「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果」について、市議会への資料提供と説明は行ったのか。行ったのであれば、その際の反応を聞かせていただきたい。

○主任指導主事（小池 純一）

9月13日（月）総務文教常任委員協議会にて報告をさせていただき、総務文教常任委員より3点、質問・指摘をいただいた。

1点目「報告内容について、結果や数値だけではなく具体的な取組について説明が必要である。」との指摘をいただいた。

2点目「コロナ禍の子どもたちへの影響に関する質問があったと思うが、そのことについて記載があるとよい。」との指摘をいただいた。

コロナ禍の影響に関する質問は①「休校期間中に勉強について不安を感じていたか」②「休校期間中に計画的に学習を続けることができたか」③「休校期間中に規則正しい生活を送っていたか」の3つであった。

①について、燕市の結果は、小学6年生が国や県よりも高い割合で不安を感じていた。②と③について、燕市の結果は小学6年生・中学3年生どちらも国や県より高い割合でできていた。

3点目「教職員はこの結果を受けて、今後どのように取り組むのか。」との質問をいただいた。「市教委としては、今年度より『読解力』育成を柱として各種研修をつなぎ、各校の授業改善を推進していく」と回答した。

○委員（斎藤 純郎）

「学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間」の質問について小学校の数値は高いが、中学校では全国や県の平均を下回っている。中学校の状況の要因を把握しているか。

○主任指導主事（小池 純一）

家庭学習時間が短くなっている要因について把握できているわけではないが、中学生の学力が伸び悩んでいる一因として考えている。中学校においては、授業と家庭学習を繋ぐ「長善タイム」の取り組みは定着している。その内容について見つめ直し、質を向上させる必要があると考えている。授業の学習内容を定着させる家庭学習となるよう、各学校に働きかけていく。

○委員（斎藤 純郎）

「課題と成果・改善に向けた取組」について、「放課後学習教室のボランティアの充実」とあるが、具体的な策を教えてください。

また、「学力向上に向けた組織的な取組」について、具体的な取組を教えてください。

○主任指導主事（小池 純一）

「放課後学習教室のボランティアの充実」について、令和3年度は市内小中学校に180名の放課後学習支援員の方から登録をいただいている。現在も各校の計画に沿って放課後学習教室が開催され、ボランティアの方から協力いただいている。地域コーディネーターの方から紹介していただいたり、日程や人数について調整していただいている。各校からさらにご協力をいただける方の募集の呼びかけをさせていただく。

「学力向上に向けた組織的な取組」について、学校・家庭・地域が協力して子どもたちの学力を伸ばしていきたいと考えている。学校は個別の支援の工夫も含めて授業

改善に取り組む。放課後学習での支援員の方の協力、また各家庭の協力を得て家庭学習も充実させていきたいと考えている。また、市教育委員会も各校のよりよい授業づくりをサポートしていく。

○委員（斎藤 純郎）

授業の時間の中で子どもたちが精いっぱい吸収することが一番望ましいが、授業を補完する意味でも充実した対策を講じていただきたい。

「課題と成果・改善に向けた取組」の「学力向上モデル校の指定」について、現在も学力向上モデル校を指定していると思うが、さらに追加して指定を考えているのか。

○主任指導主事（小池 純一）

学力向上モデル校は標準学力検査や全国学力学習状況調査の結果を参考に、モデル校の指定を毎年度更新して指導力向上、授業改善に向けた取組を行っている。新たに追加ということではない。

○委員（斎藤 純郎）

「将来の夢や希望を持っていますか」という質問で、小学校の回答が全国・県を下回っている。児童生徒が将来の夢や希望を持つことができるようになるためには、どのような対策が必要だと考えているか。

○主任指導主事（小池 純一）

今回の全国学力・学習状況調査では学力についてはもちろん、その他の質問への回答についても新型コロナウイルス感染拡大が子どもたちの生活や意識の面で大きく影響があったのではないかと危惧していたが、燕市の子どもたちはこのような状況の中であっても、多くの児童生徒が「学校に行くことが楽しい」、そして「自分には、よいところがある」と回答している。中学校3年生においては肯定的な回答が前回調査よりも上昇している。昨年度は休校措置があり、また、部活動の大会の中止、学校行事においても様々な制限を受けた中であつたが、昨年度の3年生を中心にその状況の中で何ができるか考え、工夫を凝らして乗り越えてきた。そんな先輩たちの姿を間近で見てきたことが、当時の2年生（現在の3年生）にとって非常に大きな経験だったと市内中学校のある教頭から聞いている。Good Jobつばめ推進事業をはじめとしたキャリア教育を充実させるとともに、各校が取り組む児童会活動、生徒会活動、学校行事等で児童生徒それぞれが人の役に立つことを通し、自己有用感、自己肯定感を高めていくことが将来の夢や希望につながるものと考えている。

○委員（斎藤 純郎）

児童生徒のことをよく考え、対応していただいていると感じた。今後も引き続き、児童生徒の様子を注視していただきたい。

体育について、「規則正しい生活習慣の確立に向け、学校と家庭が協力し、取組の更なる充実に努める」とあるが、規則正しい生活習慣の確立とゲームや SNS との関係をもとのように対応すればよいと考えているのか。

○主任指導主事（小池 純一）

規則正しい生活習慣の確立については、各小中学校でそれぞれ工夫された取組が行われている。強調週間を設定し、家族と相談して決めた就寝時刻と起床時刻をもとに、家庭学習、テレビやゲームの時間を自分でコントロールすることに取り組んでいる。保護者からは「自分で時計を見て行動するようになった」、「寝る時間から逆算して計画的に行動するようになった」などの感想が寄せられている。

しかし、「1日に4時間以上テレビゲームやスマートフォンなどでゲームをする」という回答が小学校6年生にも中学校3年生にも1割以上あった。また、スマートフォンなどの使用について「保護者との約束を守っていない」、「あまり守っていない」、「約束がない」と回答した児童生徒が小学校6年生は約2割、中学校3年生は約3割であった。

SNS の使用については、いじめやトラブルにつながる事例の報告もある。健康面、モラル面の両面から学校を通じて指導は継続していくが、各家庭でのルール作りや、使用方法についての見守りが必要であると考えている。保護者や家庭への啓発も継続していく。

○委員（斎藤 純郎）

「ものごとの最後までやり遂げてうれしかったことがある」の目標値と令和3年度の数値に隔たりがあるが、どのような手立てを講じればよいと考えているのか。

○主任指導主事（小池 純一）

この質問項目については、平成31年度は「ものごと最後までやり遂げてうれしかったことがある」、令和3年度は「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている」というように質問が変更され、児童生徒の質問の受け止め方も違いがあると考えられる。

しかし、児童生徒にとって何事においても大切な心構えであると捉えているので、様々な活動を通して児童生徒それぞれが人の役に立つ自己有用感、自己肯定感を高めていくこと、また、児童生徒の努力を認め評価することを、教師と学校は積み重ねていきたいと考えている。

○委員（斎藤 純郎）

NRT の偏差値について、例えば現在の中学3年生の経年変化を把握しているか。また、そこから導き出される要因を検討しているか。

○主任指導主事（小池 純一）

各学年の偏差値の推移は毎年グラフ化し分析している。これまでの傾向として、いずれの学年集団も小学校4年生、5年生から偏差値が下降する傾向が見られる。国語については小学校4年生から、算数については小学校5年生から下降し始める傾向が見られる。

小学校では児童の学習意欲、学力を維持しさらに高める授業の工夫、中学校では身につけた基礎・基本を活用・応用する力を伸ばす指導の工夫が必要と考えている。

また、校種、教科の枠を越えて、児童生徒が意欲的に、主体的に学ぶ土台として、市教育委員会としては「読解力」の育成に取り組んでいく。正しく文章などを読み解く力、情報を整理する力、自分の考えをまとめ伝える力といった「読解力」の育成に取り組んでいくことで児童生徒がわかる・できる喜びを実感し、学習意欲の向上につながるものと考えている。

○委員（斎藤 純郎）

個々の児童生徒の力はそれぞれ異なり差異があると思うが、全体としての要因を分析し、各校で共有し、児童生徒の学力が向上するよう取り組んでいただきたい。

○委員（小林 恵子）

NRTの偏差値について、今年度は中学校1年生の英語の数値が空欄になっているが、今後実施する予定はあるのか。

○主幹（鈴木 華奈子）

昨年度に実施を検討したが、小学校の学習指導要領に則った外国語指導は「親しむ」が主体であり、アルファベットの表記ができるということに留まっている状況である。そうした中で、今回の標準学力検査がどのような内容になるかよく検討する必要がある、という判断をし実施を見送った。今後他市町村の様子を確認しながら検討したい。

8 閉 会 午後2時45分

燕市教育委員会会議規則（平成18年燕市教育委員会規則第2号）第17条第2項の規定により会議録に署名する。

令和 5 年 10 月 29 日

教 育 長 山 田 公 一

教 育 委 員 甲 野 信 男

教 育 委 員 秦 久 美 子

教 育 委 員 齋 藤 純 郎

教 育 委 員 小 林 恵 子

教 育 委 員 上 田 佳 澄

会 議 録 作 成 職 員 志 賀 覚 子